

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●秋華賞はモンローウォークが無敗&レースレコードで優勝

10月18日(日)に行われた秋華賞(G I)では、デビュー4連勝中のモンローウォーク(牝3歳/栗東・上村洋行厩舎)が優勝、5連勝を飾るとともにG I初出走初制覇を果たしました。無敗のままの秋華賞制覇は、2002年ファインモーション、2006年カワカミプリンセス、2020年デアリングタクトに続いて史上4頭目。勝ち時計の1分56秒1は、2015年ミッキークイーンの1分56秒9を更新する秋華賞レコードとなります。

●中村直也調教師がJRA通算100勝を達成

10月18日(日)の4回京都7日・第1レースではアワードリームスが1着となり、同馬を管理する中村直也調教師(栗東)は、現役140人目となるJRA通算100勝(延べ1228頭目)を達成しました。

●三樹祐輔調教師が新規開業

田村康仁調教師の逝去による中舘英二調教師への臨時貸付期間が満了したことに伴い、三樹祐輔調教師(美浦)が10月21日(水)に新規開業しました。14馬房でのスタートとなります。

●オータムセール開催

10月13日(火)と14日(水)、北海道新ひだか町の北海道市場において「オータムセール」が開催されました(主催：HBA日高軽種馬農業協同組合)。上場された346頭(牡138頭・牝208頭)のうち264頭(牡114頭・牝150頭)が落札され、売却率は76.3%、売却総額は7億9380万円。最高価格をつけたのは、牡馬がウルス2025(父オナーコード)で1300万円、牝馬がメジロコウミョウ2025(父ルヴァンスレーヴ)で1650万円でした(金額はすべて税別)。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンドの結果

2026ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド川崎は10月15日に実施され、第1戦を土田真翔騎手(美浦)、第2戦を中山遥人騎手(浦和)が勝利。10月20日に行われたトライアルラウンド盛岡は、第1戦は長浜鴻緒騎手(美浦)、第2戦は高橋優騎手(大井)が優勝。10月21日のトライアルラウンド笠松は、第1戦を松本一心騎手(笠松)、第2戦を大久保友雅騎手(栗東)が制しています。

●門別、大井で無敗の牝馬が重賞制覇【各地の2歳重賞】

フローラルC(9月17日、門別、1,600^円、牝馬)は、先手を取った単勝1.9倍で断然人気のサッポロクラシックCの覇者カズドリーム(父モーニン)が後続を半馬身抑え、デビュー以来3連勝。ゴールドジュニア(9月17日、大井、1,400^円)は、好発から3番手に控えた単勝1.3倍で圧倒的人気のパープルフォッグ(牝、父モズアスコット)が4コーナー手前で先頭に立って3馬身半差で楽勝、こちらも3戦全勝としました。園田プリンセスC(9月17日、園田、1,400^円、牝馬)は、北海道から兵庫への移籍馬パドラ(父タリスマニック)が逃げ切り、単勝元返しの支持に応えています。

●ワールドエンジェルらが参戦、10月29日のエーデルワイス賞

エーデルワイス賞(JpnⅢ、2歳牝馬、10月29日、門別、1,200^円)は、JRAからはワールドエンジェル、カエリールクス、ミカミッチー、コンテミュールが出走予定ですが、前の2頭は2戦2勝もダート未経験、後ろの2頭はキャリア1戦とあって、セルアウトクラウド、カズドリームら地元北海道勢が強敵となりそうです。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●芝世界最高賞金のG 1 ジ・エベレスト〜テンプレッドが制す

芝レースとしては世界最高賞金(総賞金2000万豪ドル=約22億5600万円/1豪ドル112.8円で換算)を誇るG 1 ジ・エベレスト(3歳以上、芝1,200^m)が現地10月17日にオーストラリア・ニューサウスウェールズ州のランドウィック競馬場で行われ、昨年の2着馬テンプレッド(牝4歳、父ストリートボス、C.マー厩舎)がC.スコフィールド騎手を背に先行策から早めに抜け出して優勝しました。同馬は昨年のジ・エベレストを最後に負け知らずで、これで重賞6連勝。G 1は今年2月のサラウンドS(芝1,400^m)に続く2勝目です。なお、連覇を狙った香港のカーインライジングは追い上げ及ばず、0.23馬身差の2着。2024年2月から続いていた連勝は21でストップしました。

●G 1 英チャンピオンS〜オンブズマンがG 1・5勝目

5つのG 1が組まれた英チャンピオンズデーが10月17日にイギリスのアスコット競馬場で行われました。そのメインレースであるG 1 英チャンピオンS(3歳以上、芝1,990^m)を制したのはオンブズマン(牡5歳、父ナイトオブサンダー、J&T.ゴスデン厩舎)。W.ビューイック騎手の手綱で中国追走から直線で鋭く伸びると、昨年の優勝馬カラダガンに3馬身3/4差をつけました。昨年2着の雪辱を果たしたオンブズマンは、昨年のプリンスオブウェールズS(芝1,990^m)とインターナショナルS(芝2,050^m)、そして今年のドバイターフ(芝1,800^m)とプリンスオブウェールズSに続くG 1・5勝目。前走8月のG 1 インターナショナルSは末脚不発で4着でしたが、見事に巻き返しました。